

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 5 4 号 2 0 1 6 年 6 月 1 5 日

発行 中部学院大学 宗教委員会 〒501-3993
中部学院大学短期大学部 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

「脈々と伝わる生命 100 年」

片桐 多恵子 (岐阜済美学院学院長・短期大学部学長・大学副学長)

本号では、この4月に学院長に就任された片桐多恵子先生が高校・大学共通テキスト『知識のはじめ 私たちの岐阜済美学院』の巻頭に書いて下さった文章を再録させていただきました。全学年の皆さんに読んでいただきたいからです。

私たちの岐阜済美学院は樹齢100年を迎えようとしている大木です。現在は幼稚園・高等学校・短期大学・大学と幾つかの大きな枝を伸ばしている私立学校です。

国立や公立とちがって私立学校は、創立者の強い信念によって創設されています。本学院の創立者・片桐龍子先生は熱い信仰の人でしたから、「神の愛に感謝し、自立した人間の生き方を追及し、社会に貢献する人材の養成」を目指されました。その「人づくり教育」は、第二次世界大戦後、片桐孝先生がキリスト教主義を教育の根底に据えることによって一層確かなものとなり、今日まで脈々と受け継がれてきました。

そのような本学院の「建学の精神」は、「神を畏れることは知識のはじめである」という言葉に

表されています。この言葉の出典である旧約聖書の聖句は「無知な者は知恵をも論しをも侮る」と前句と対になって続いています。これで分かるように、建学の言葉は「知恵や論しに耳を傾けなさい。深い知恵ある存在を敬うことが学びの第一歩である。真理に対して聴く耳を持って謙虚に学びなさい」と言っているのです。

実際には聴く耳を持つことは、なかなか難しいことです。例えば、樹齢千年以上の屋久杉の幹に耳を押し当てて一生懸命聴こうとしても、かすかな音しか聴こえません。しかし、お医者さんの聴診器をつけると、はっきり聞こえます。確実に伝わって来る音があります。根から水分を吸い上げている音です。屋久杉の生命そのものが伝わって来ます。そのように、チャペルの時間やこの『桐が谷通信』、そして「建学の精神」についてのテキスト『知識のはじめ』などが聴診器の役割を果たしてくれて、岐阜済美学院の真髓である「建学の精神」が皆さんにしっかりと伝わることを願っています。



片桐多恵子先生



創立100周年シンボルマーク

中部学院大学・中部学院大学短期大学部を有する岐阜済美学院は、2018年に創立100周年を迎えます。そのためのシンボルマークが制定されました。紹介します。

また、2017年には短期大学は創立50周年、大学は創立20周年を迎えます。学生、教職員一同そろって、記念の年を喜びをもって迎えたいと思います。

第1期生戴灯式

— 専門職へ進むための自分の意思を見つめる —

看護学科 木村 恵子

2016年4月27日(水)、看護学科第1期生の戴灯式が行われた。「戴灯式」は、キリスト教徒であり「クリミアの天使」といわれたフローレンス・ナイチンゲールが、クリミア戦争(1853~56年)で看護にあたった際、暗い病室にいる傷ついた兵士たちをロウソクの火のもとに献身的に看護し見守ったことに由来する。やがてそのろうそくの火は、献身、隣人愛・人間愛を受け継ぐ「看護の心」を表す象徴となり、「いのちの灯火」と言われるようになった。

この日、看護学科1期生はチャペルにて、この「いのちの灯火」を受け継ぐ「戴灯式」を行った。そして「ナイチンゲール誓詞」を唱和して誓いを立てた。

学生に「今日の誓い」はどのようなものであったか聞いた。「看護師になるための決意を固める」「覚悟をきめる」「腹をくくる」「自分と約束する」「方針を決める」「他者への意思表示である」「もう後戻りできない」「とりあえずやり続ける」など、意思決定がうかがえる内容であった。



戴灯式

この日が来るまで、学生はそれぞれ授業や課題の中で迷いや悩みがあったようだが、チャペルという神聖な場所で今の自分と素直に向き合う事ができ、自分の意思をみつめる良い時間となったようである。この「誓い」こそが、看護という大変な職業に対する情熱や責任感を強くもつために繋がる力になると思う。

練習の時は足並みがそろわなかった。その理由は、セレモニーを成功させることだけに集中していたからであろう。しかし当日は、学生の気持ちが入った瞬間に「いのちの灯火」を受け取るためにふさわしい厳かな動きとなって、1期生がひとつとなり、感動的な式が生まれたように思う。この日の「誓い」を忘れないで専門職者としての道を進んでほしい。

進め！ 看護学科1期生

フローレンス・ナイチンゲールの言葉

「看護を実践するための学習はすべて、信仰を深めるための黙想の一つともいえるのではないでしょう。自分の部屋で静かに、その一日を神に捧げるために数分間の静かな思索の時を持ちなさい。ますます忙しくなる生活の中でこそこれはどうしても必要なことなのです。」

(小玉香津子『ナイチンゲール』清水書院、226ページより)

「平成28年(2016年)熊本地震」とキリスト教会

去る4月14日午後9時26分、熊本を震源とするM6.5の地震が発生、益城町で震度7。さらに16日午前1時25分、M7.3の地震により益城町と西原村で震度7の揺れが生じ、多くの方々が亡くなり、怪我を負い、今なお避難生活を続けている人たちがたくさんおられます。亡くなられた方々には深く哀悼をささげると共に、困難の中におられる方々には心よりのお見舞いを申し上げます。

本学には熊本出身の学生たちがおりますし、熊本在住の家族が医療活動や教会活動を行っている教職員もおります。学生会は募金を呼びかけましたし、夏休みにはボランティアや調査で出かける予定の人もいます。本号では、熊本で行われているキリスト教会による取り組みの一端を紹介し、被災地に思いを向けたいと思います。

二度の大きな地震によって、益城町の熊本東聖

桐の谷通信

書キリスト教会（豊世武士牧師）が倒壊するなど、多くのキリスト教会が被災しました。牧師先生とご家族、教会スタッフや信者さんたちも被災者となる中で、ただちに支援活動を始められました。建物に損傷がなかった教会が避難所となって、信者や近隣の人々を受け入れ、また救援物資の集荷・配送の「小基地」となったところもあります。

たとえば、ある教会からの便りにはこう書かれています。「震災直後より数名の方が避難して来られ、10名ほどのものが共に生活し、祈り、奉仕致しました。二週間近くの断水、一時は店も開かない中も、食物も尽きることなく、水汲みにも全国からの給水車の方のご愛を受け、共なる食卓に喜び合うという不思議な体験をさせていただきました。また、数名の者で近所の方々の訪問や被災された地域、教会を訪ね、支援物資や義援金を祈りと共にお届けすることができました。」

災害時には、学校や公共の建物のみならず、寺院や教会などの宗教施設も避難所として機能を果たします。とりわけ、教会のネットワークを生かして、在日韓国・朝鮮人、滞日外国人の方々との情報共有や支援が、諸教会の連携、さらには他宗教との協働のうちに行われています。

以下は、以前本学に職員として勤務なさっていた西堀元先生からの報告とメッセージです。先生は本学を辞して神学校に学ばれ、2014年の夏から日本キリスト改革派熊本教会（熊本市中央区）で牧師として活動されています。

「今日は午前中、日本A教団の先生方が宮崎、北九州、そして隣町からB先生がご自身が被災されているにもかかわらずお見舞いに来てくださ

いました。貴重な情報や大きな励ましをいただきました。本当に感謝です。午前中から、救援物資の配給をはじめました。昼からは熊本教会の姉妹がたがお仕事を抜けたりして手伝いに来てくれました。

昨日の物資がなくなりかけた頃、広島からの救援隊が来てくれました！朝、6時に出発し熊本には3時半到着。長時間の運転をS先生、K先生が交代で運転して来られました。小型トラックから荷物を教会の駐車場におろして、露店市場みた

いな感じで救援物資を並べました。昨日来てくださったかたからのクチコミ、青年にネットに流してもらい近所の方があれよあれよと集まり、小型トラックいっぱい荷物も夕方には8割がた無くなりました！広島の皆さん、ありがとうございました。5000人給食のときにイエス様が12弟子に言われた、『あなた方が与えなさい！』を思い出します。・・・これから長期化するにつれて病気の人が増えてきそうです。どうぞお祈りください。皆さんのお祈りと援助に心から感謝します。（4月20日付けFB）

「志村先生、お久しぶりです。なかなかお返事できずすみませんでした。遠方にあっても覚えていてくださること心強く思います。・・・中部学院の皆様によろしくお伝えください。教会はいま物資を配ることを神学校などからのボランティアと一緒にしています。小さな事しかできませんが、

地域の方の慰めや助けに少しでもなればと思っています。余震は体感ではだいぶ収まってきました。引き続きお祈りいただければ幸いです。また帰省の折などお会いできれば嬉しいです。どうぞお元気で！」（5月11日付けEメール）



熊本上空からブルーシートの屋根が続く
(志村家族撮影5月初旬)

地域の方の慰めや助けに少しでもなればと思っています。余震は体感ではだいぶ収まってきました。引き続きお祈りいただければ幸いです。また帰省の折などお会いできれば嬉しいです。どうぞお元気で！」（5月11日付けEメール）

2016年度 宗教講演会

「あなたの隣りにいる「LGBT」のお話し」

日本聖公会 中部教区司祭 後藤 香織 先生



日時：7月4日(月) 11:00~12:15

(第2時限の講義は第5時限に行います。)

会場：関キャンパス 11301 教室

<講演内容>

皆さんは、「LGBT」という言葉を耳にしたことがありますか？ レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(性別越境者)の頭文字に由来し、性的少数者を意味する言葉です。

昨年2015年6月26日、アメリカの連邦最高裁判所は、同性婚を認める判断を示し、これにより事実上、全米で同性婚が合法化されることになりました。またわたしたち日本でも2015年4月には、東京都渋谷区で同性パートナー条例が施行され、同年9月からは世田谷区で条例によらない「同性パートナーシップ宣誓」の要綱を発表され、今年2016年4月1日には、三重県伊賀市が同性カップルの公的証明書発行を始め、兵庫県宝塚市や、沖縄県那覇市など、多くの自治体がこれに続こうとしています。

これらの出来事は、わたしたちの世界がLGBTの人権を尊重する方向へ、大きく舵を切った出来事と言えるように思えます。

しかし、同性愛者であるだけで死刑に処せられる国も、世界ではまだ多く残っています。日常生活の中で、まだまだLGBTは、身近に普通に居る、とは考えられていません。様々な偏見で、毎日辟易^{へきえき}することも、残念ながら現実です。

わたしたちの世界が、誰もが生命を光輝かせて生きる平和な世界を目指すときに、考えていただきたいLGBTのことを、皆さんと分かち合わせていただきたいと思います。

<講師プロフィール>

後藤香織(ごとう・かおり) カミングアウトをして、男から女へのトランスジェンダー、バイセクシュアルの司祭です。宮城県仙台市生まれ。東北学院大学法学部卒業、聖公会神学院中退。日本聖公会中部教区総主事。名古屋聖マルコ教会牧師、愛知聖ルカ教会牧師。NPO 法人「可児ミッション」理事長。

CCF(中部学院クリスチャンフェロウシップ)聖歌隊は参加者を募集しています!

音楽のすきなひと、友達をもっと増やしたいひと、思い出を沢山つくりたいひと、新しい自分を発見したいひとは、チャペルのあとにでも是非、申し出てください。とくに初心者の方、大歓迎です。これからは賛美歌に加えてゴスペルなどもやっていこうかと相談しています。

火曜と金曜の昼休みに6305教室で練習しています。まったくの初歩から練習していますし、ときどきはお菓子の差し入れもあります。都合のいいときに来ればいいのでお待ちしております。(顧問・笠井恵二)

